

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度（令和5年度）

2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月31日



株式会社クリーンコントロールサービス

作成日：2024年6月11日

1.	事業の概要	...	3P
	(1) 事業所名及び代表者名	...	3P
	(2) 所在地	...	3P
	(3) 資本金	...	3P
	(4) 設立年月日	...	3P
	(5) 環境管理責任者氏名及び連絡先	...	3P
	(6) 事業の規模	...	3P
	(7) 事業内容	...	3P
	(8) 廃棄物処理業の許可内容	...	4P
	(9) 保有施設の概要	...	5P
	(10) 処理料金等	...	5P
	(11) 廃棄物処理フロー	...	6P
2.	環境理念と環境経営方針	...	7P
3.	エコアクション21実施体制組織図・責任と権限及び対象範囲	...	8P
4.	環境経営目標	...	9P
5.	環境経営計画の実績	...	10P
6.	令和2年度～令和4年度実績の比較	...	12P
7.	環境経営計画と取組結果の評価及び次年度の取組み	...	16P
8.	環境関連法規の取りまとめ及び違反訴訟の有無	...	17P
9.	代表者による全体の評価と見直し・指示	...	18P
10.	総括	...	18P

1.事業の概要

- (1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社クリーンコントロールサービス

代表取締役 竹田 哲士
- (2) 所在地

● 本社 TEL:0545-71-3848

静岡県富士市厚原道下17番地の1

(※事業内容に関して、リキッド事業部も含まれる)

用途地域指定：第1種住宅地域

騒音地域指定：第2種区域

振動地域指定：第1種区域の2

● 中間処理部門 TEL:0544-58-5852

静岡県富士宮市山宮3756-10

用途地域指定：市街化調整区域

騒音地域指定：第2種区域

振動地域指定：第1種区域の2

● 運輸事業部門 TEL:0545-71-3848

静岡県富士市厚原道下17番地の1

用途地域指定：第1種住宅地域

騒音地域指定：第2種区域

振動地域指定：第1種区域の2

● リサイクル第一工場部門

TEL:0545-34-5577

静岡県富士市比奈字片田497-1

用途地域指定：工業専用地域

騒音地域指定：第4種区域

振動地域指定：第2種区域の2

● 中間処理第二工場部門

静岡県富士市比奈字片田497-1

用途地域指定：工業専用地域

騒音地域指定：第4種区域

振動地域指定：第2種区域の2

● 第1駐車場

静岡県富士市伝法字片宿938-3

用途地域指定：第1種住宅地域

騒音地域指定：第2種区域

振動地域指定：第1種区域の2

● 第2駐車場

静岡県富士市伝法字片宿884-1

用途地域指定：第1種住宅地域

騒音地域指定：第2種区域

振動地域指定：第1種区域の2

● 第3駐車場

静岡県富士市厚原溝下99-1

用途地域指定：第1種住宅地域

騒音地域指定：第2種区域

振動地域指定：第1種区域の2
- (3) 資本金

1,000 万円
- (4) 設立年月日

昭和 57 年 6 月 1 日
- (5) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者 竹田 哲士

TEL：0545-71-3848

mail：t-takeda@ccs-gr.co.jp
- (6) 事業の規模

事業年度 4月～3月

	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	37,257	34,912
	産業廃棄物中間処理量	t	7,859	7,483
	一般廃棄物収集運搬量	t	5,766	5,792
売上高		百万円	1,074	1,083
従業員数		人	56	57
床面積(本社事務所)		m ²	853	853
- (7) 事業内容

一般廃棄物収集運搬業・産業廃棄物収集運搬及び中間処分業・特別管理産業廃棄物収集運搬業
マット・モップリース業

(8) 廃棄物処理業の許可内容

産業廃棄物収集運搬業																		
	許可番号	許可取得	許可期限	廃 プラ	木 くず	紙 くず	繊 維 くず	金 属 くず	動 植 物 性 残 さ	が れ き 類	ガ ラ ス 陶 磁 器	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	汚 泥	ば い じ ん	燃 え 殻	動 物 の ふ ん 尿
静岡県	02201002790	R1.7.3	R8.7.2 (優良認定)	○	◎	◎	◎	□	◎	△	○	◎	◎	◎	□	◎	◎	◎
長野県	2009002790	R2.8.16	R7.8.16	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎			
神奈川県	01402002790	R3.9.22	R8.8.8	○	◎	◎	◎	□	◎	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
埼玉県	01104002790	R4.2.22	R9.1.21	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎		◎	◎			
栃木県	00900002790	R4.3.22	R9.3.21	◎				◎			◎	◎	◎	◎	◎			
茨城県	00801002790	R6.1.19	R10.11.17	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎		◎	◎		◎	
群馬県	01000002790	R6.2.12	R11.2.11											◎	◎			
東京都	1300002790	R4.9.19	R9.9.18	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎			
山梨県	01900002790	R5.3.24	R10.3.23	○	◎	◎	◎	□	◎	△	○	◎	◎	◎	□		◎	
愛知県	02300002790	R5.11.6	R10.10.27	△	◎	◎	◎	◎		△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
三重県	02400002790	R5.9.26	R10.9.21										◎	◎				
岐阜県	02100002790	R1.11.25	R6.11.24	◎								◎	◎	◎	◎	◎	◎	
千葉県	01200002790	R2.8.25	R7.8.25	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

(注) ○ … 石綿含有廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含む。
□ … 水銀使用製品産業廃棄物を含む。
△ … 石綿含有廃棄物を含む。

特別管理産業廃棄物													
	許可番号	許可取得	許可期限	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	感 染 性	特定有害					
								廃 石 綿	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	燃 え 殻
静岡県	02251002790	H29.12.17	R6.12.17 (優良認定)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
神奈川県	01452002790	R5.9.27	R10.8.17	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎
東京都	01350002790	R5.9.29	R10.9.28	◎	◎	◎			◎	◎	◎		
埼玉県	01154002790	R6.6.10	R11.5.27			◎			◎			◎	◎
山梨県	01950002790	R3.8.9	R8.8.8	◎	◎	◎	◎				◎	◎	
愛知県	02350002790	R5.11.6	R10.10.27	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎
栃木県	00950002790	R4.5.7	R9.5.6	◎	◎	◎			◎		◎	◎	
三重県	02450002790	R5.9.29	R10.9.28	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
千葉県	01250002790	R2.8.25	R7.8.25	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	

産業廃棄物処分量				
	許可番号	許可取得	許可期限	品目
静岡県	02222002790	R1.7.2	R8.7.2 (優良認定)	焼却：木くず 紙くず 繊維くず 動植物性残さ 破碎：廃プラスチック類 木くず 紙くず 繊維くず がれき類 ガラス陶磁器くず 金属くず 脱水：汚泥 熔融：廃プラスチック類(発泡スチロール) 分級：燃え殻 圧縮梱包：廃プラスチック類 圧縮：廃プラスチック類 金属くず(スチール缶・アルミ缶)

一般廃棄物処理業				
市町村	許可取得	許可期限	許可番号	
富士市	R6.4.1	R8.3.31	富士市許可第1－03号	
富士宮市	R6.4.1	R8.3.31	富士許第8号	
静岡市（旧蒲原・由比町域に限る）	R6.4.1	R8.3.31	第10057号	

(9) 保有施設の概要

		本社	中間処理 部門	運輸事業 部門	リサイクル 部門	中間処理 部門第二工場	計
車 輛	パッカー車	22台	6台	1台			29台
	アームロール車	6台					6台
	増tアームロール車	2台	2台	4台			8台
	大型アームロール車		1台	4台			5台
	キャブオーバ	6台		3台			9台
	大型バン			3台			3台
	バキューム車	2台					2台
	大型ダンパー	6台					6台
	大型ダンプ車			1台			1台
	ワゴン車	1台					1台
	乗用車	6台					6台
重 機	フォークリフト		4台		1台		5台
	油圧ショベル		3台				3台
処 理 施 設	焼却炉		1基				1基
	破砕機		1基			1基	2基
	脱水機		1基				1基
	熔融機				2基		2基
	分級機					1基	1基
	圧縮梱包機					1基	1基
	圧縮機		1基			1基	2基

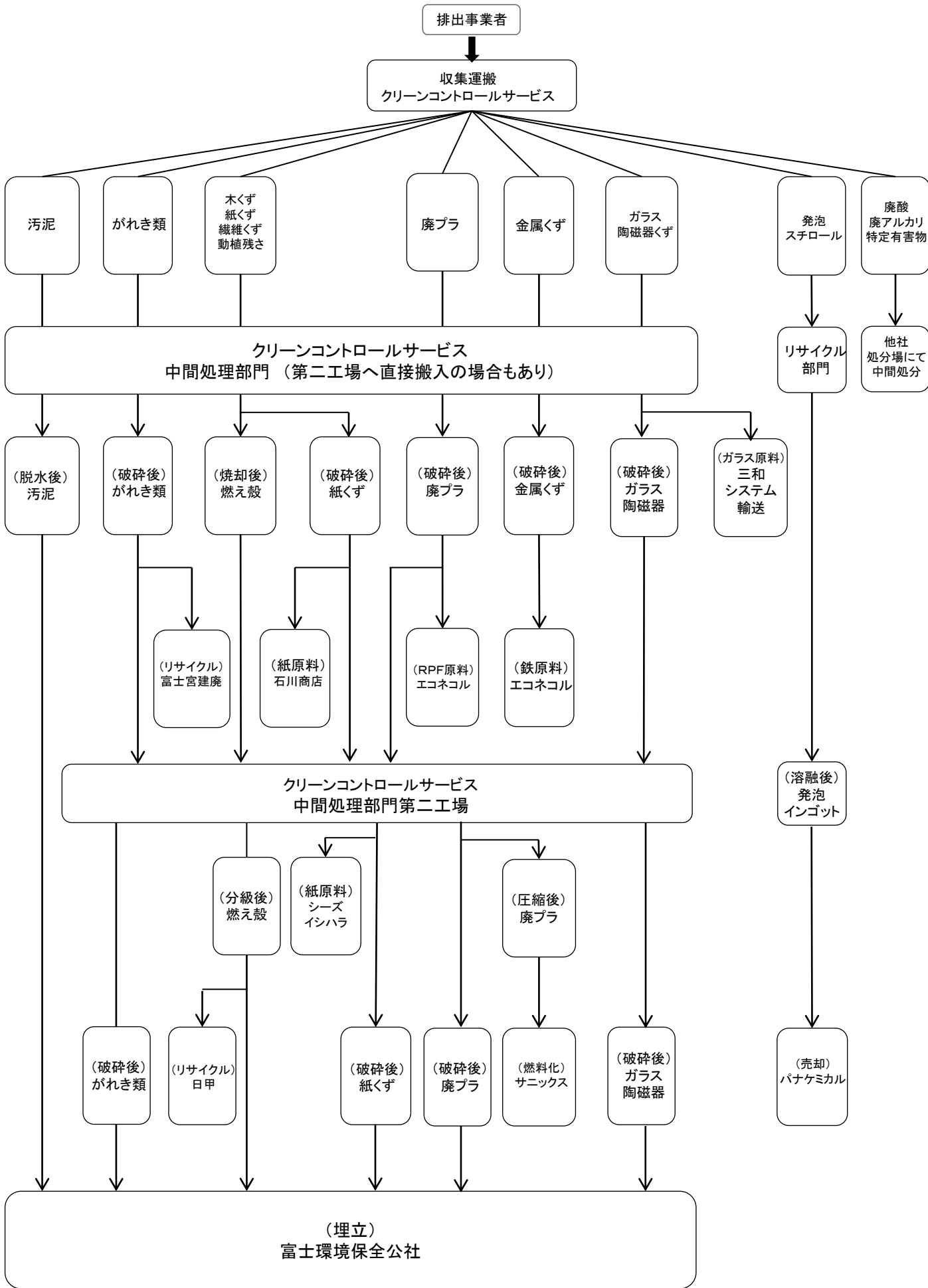
処理施設	廃棄物の種類	処理能力
焼却炉	紙くず	4.70t／日
	木くず	4.89t／日
	繊維くず	4.57t／日
	動植物性残さ	4.50t／日
1号破砕機	金属くず	18.90t／日
	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	20.30t／日
	がれき類	21.70t／日
	紙くず	4.10t／日
	木くず	6.80t／日
	繊維くず	4.10t／日
	廃プラスチック類	4.82t／日
脱水機	汚泥	1.13m ³ ／日
1号熔融機	廃プラスチック類 (発泡スチロールに限る)	0.40t／日
2号熔融機	廃プラスチック類 (発泡スチロールに限る)	0.40t／日

処理施設	廃棄物の種類	処理能力
2号破砕機	金属くず	7.44t／日
	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	6.25t／日
	がれき類	4.94t／日
	紙くず	3.75t／日
	木くず	4.56t／日
	繊維くず	1.44t／日
	廃プラスチック類	4.32t／日
分級	燃え殻	152t／日
圧縮梱包	廃プラスチック類	15.84t／日
圧縮	廃プラスチック類	38.95t／日
圧縮	金属くず(スチール缶に限る)	1.55t／日
	金属くず(アルミ缶に限る)	1.22t／日

(10) 処理料金等

定期収集、スポット収集の料金は、状況に応じて御見積りを出させていただきます。

(11) 廃棄物処理フロー



2. 環境理念と環境経営方針

【環境理念】

株式会社クリーンコントロールサービスは環境関連事業に携わる者として、「地域環境を未来に」との認識を持ち、循環型社会の担い手として、企業活動のあらゆる面で、地球環境への負荷を最小限とする事を社員一同で目指し、社会との共生を図りながら、継続的に取組みを推進します。

【環境経営方針】

1. 自社の事業である「一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬業及び中間処分業」を通じて循環型社会の一端を担うべく、CO₂の削減の為の目標として省エネルギー、水資源の効率的な利用、廃棄物の再資源化率の向上を掲げ、環境負荷低減に努めます。
2. 業務においては、省エネルギー（電力・燃料）、節水、消耗品の使用方法の見直しに努め、継続した改善目標を確立して効率的な環境経営を目指します。
3. 再資源化率の向上に重きを置くことで、顧客の環境負荷低減や、最終処分場の負担低減等の社会的な要求に積極的に応えていきます。
4. 社会に対する責任と感謝の心を持ち、地域社会との共生を図ります。環境配慮に努め、リサイクル事業を通じ、地域の環境維持と改善に努めます。地域町内との公害防止協定遵守と様々な催しを通じてのコミュニケーションを図っていきます。
5. 環境に携わる人的資源確保の為、社員と協議の上で労働環境の改善に努めるとともに、廃棄物処理業に対するイメージの向上を目指します。
6. 廃棄物処理法を始め環境に関する法規・規制の遵守、並びに道路交通法等の遵法の為の講習会を定期的を開催し、危機管理リスクの重大性を社員一同の共通認識とします。
7. 持続可能な社会を実現するため、上記方針を通じてSDGsの目標達成を目指します。



制定日 2011年12月1日

改定日 2021年4月1日

株式会社クリーンコントロールサービス

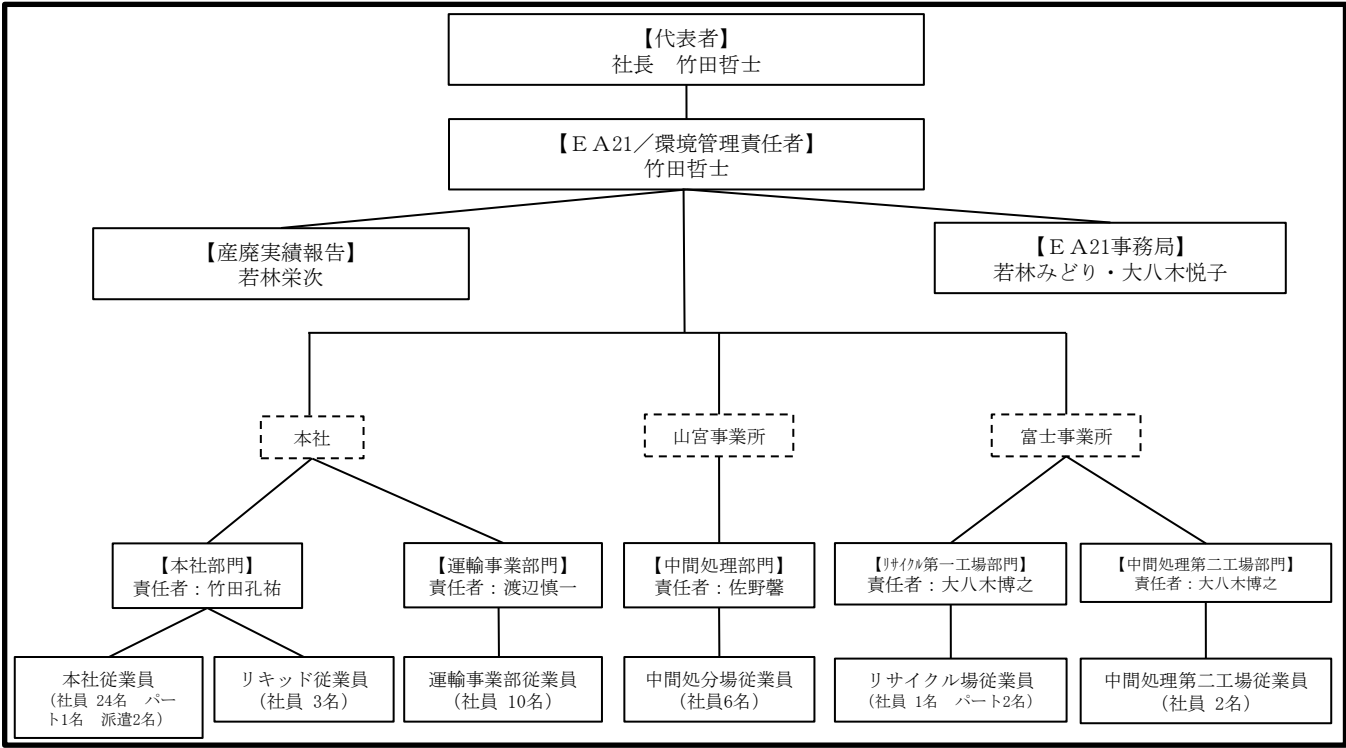
代表取締役

竹田 哲士



3.エコアクション21実施体制組織図・責任と権限及び対象範囲

対象範囲：実線部内の部門を対象とする。（既認証範囲）



役職		責任と権限
最高責任者 代表取締役 竹田哲士		①経営における課題とチャンスをつまえた環境経営方針の制定、環境経営目標及び計画の承認 ②環境管理責任者の選任・任命 ③必要な資源(人材・設備・技術・資金)の準備 ④環境経営システムの評価と見直しをし、必要な指示を行う
環境管理責任者 竹田哲士		①環境経営目標及び計画案の策定 ②環境関連法規の収集及びチェック ③環境経営計画の取組みに必要な教育・訓練の実施 ④評価 ⑤環境経営レポート等の文書作成
EA21事務局 若林みどり 大八木悦子		①環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況の確認 ②各部門の取組状況のデータ取りまとめ ③環境マニュアル・手順書・帳票の見直し ④各部門間との情報伝達 (3)使用燃料(灯油・軽油・ガソリン)(4)使用電気量 (5)ガス使用量
【本社】 本社部門 (リキッド事業部を含む) 運輸事業部門	本社部門責任者 竹田孔祐	①現場従業員への教育 ②EA事務局へ各データの提供 (1)水道量(担当:高畑正巳) (2)地下水量(担当:高畑正巳) (3)事務所から出る廃棄物量(担当:遠藤祐二)
	運輸事業部門責任者 渡辺慎一	①現場従業員への教育 ②EA事務局へ車両燃費データの提出
	本社部門従業員 運輸事業部門従業員	①収集運搬車両のエコドライブを心がける ②洗車時の使用水の節水を心がける ③事務所の電気使用の削減(空調・電灯など)を心がける ④事務所から発生する廃棄物の減量に努める ⑤作業手袋等の再利用に努める
【山宮事業所】 中間処理部門	部門責任者 佐野馨	①現場従業員への教育 ②EA事務局へ各データの提供 (1)使用井戸水量 (2)事務所から出る廃棄物量
	中間処理部門従業員	①収集運搬車両のエコドライブを心がける ②洗車時の使用水の節水を心がける ③事務所の電気使用の削減(空調・電灯など)を心がける ④事務所から発生する廃棄物の減量に努める ⑤作業手袋等の再利用に努める
【富士事業所】 リサイクル部門 中間処理第二工場部門	部門責任者 大八木博之	①現場従業員への教育 ②EA事務局へ各データの提供 (1)事業場から出る廃棄物量
	リサイクル部門従業員	①発生する廃棄物の減量に努める ②水道の節水を心がける ③事務所の電気使用の削減(空調・電灯など)を心がける ④作業手袋等の再利用に努める
	中間処理第二工場従業員	①発生する廃棄物の減量に努める ②水道の節水を心がける ③事務所の電気使用の削減(空調・電灯など)を心がける ④作業手袋等の再利用に努める

4.環境経営目標

基準年度を令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）とする。

●短期目標 令和5年4月～令和6年3月

環境目標項目		単位	基準年度 令和3年4月 ～令和4年3月実績	目標率	目標値
二酸化炭素排出量 (排出係数:東京電力2020年度 0.434 使用)		kg-CO2	1, 316, 219	1.4%の削減をする	1, 297, 791
内訳	電力消費量	kWh	248, 067	0.5%の削減をする	246, 827
	LPG消費量	kg	210	現状を維持し適正利用を心がける	実績を把握する
	ガソリン消費量	ℓ	6, 041	燃費の向上をめざす	実績を把握する
	軽油消費量	ℓ	452, 583	1.5%の削減をする	445, 794
	灯油消費量	ℓ	3, 271	2.0%の削減をする	3, 206
一般廃棄物排出量		t	0.56	現状を維持し資源の再利用に努める	実績を把握する
産業廃棄物排出量		t	7, 346	現状を維持し、リサイクル率を増加させる	実績を把握する
再資源化率(廃プラ・紙くず・金属くず対象)		%	52.9	1.0ポイント増加させる	53.9(月平均)
上水使用量		m ³	192	現状を維持し適正利用を心がける	実績を把握する
地下水使用量(中間処理部門)		m ³	14, 274	現状を維持し適正利用を心がける	実績を把握する
地下水使用量(本社・運輸 洗車用)		m ³	3, 212	0.5%の削減をする	3, 196

●中長期目標

環境目標項目		単位	基準年度 令和3年4月 ～令和4年3月実績	令和5年度 4月～3月目標値	令和6年度 4月～3月目標値	令和7年度 4月～3月目標値
二酸化炭素排出量 (排出係数:東京電力 2020年度0.434使用)		kg- CO2	1, 316, 219	1, 297, 791 令和3年度実績値より 1.4%の削減をする	1, 289, 894 令和3年度実績値より 2.0%の削減をする	1, 288, 578 令和3年度実績値より 2.1%の削減をする
内訳	電力消費量	kWh	248, 067	246, 827 令和3年度実績値より 0.5%の削減をする	243, 106 令和3年度実績値より 2.0%の削減をする	241, 865 令和3年度実績値より 2.5%の削減をする
	LPG消費量	kg	210	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)
	ガソリン消費量	ℓ	6, 041	燃費の向上を目指す (目標値を定めない)	燃費の向上を目指す (目標値を定めない)	燃費の向上を目指す (目標値を定めない)
	軽油消費量	ℓ	452, 583	445, 794 令和3年度実績値より 1.5%の削減をする	443, 531 令和3年度実績値より 2.0%の削減をする	443, 531 令和3年度実績値より 2.0%の削減をする
	灯油消費量	ℓ	3, 271	3, 206 令和3年度実績値より 2.0%削減をする	3, 189 令和3年度実績値より 2.5%削減をする	3, 173 令和3年度実績値より 3.0%削減をする
一般廃棄物排出量		t	0.56	現状を維持し 資源の再利用に努める (目標値を定めない)	現状を維持し 資源の再利用に努める (目標値を定めない)	現状を維持し 資源の再利用に努める (目標値を定めない)
産業廃棄物排出量		t	7, 346	再資源化量増加による リサイクル率の上昇を目指す (目標値を定めない)	再資源化量増加による リサイクル率の上昇を目指す (目標値を定めない)	再資源化量増加による リサイクル率の上昇を目指す (目標値を定めない)
再資源化率 (廃プラ・紙くず・金属くず対象)		%	52.9	53.9 令和3年度実績値より 1.0ポイント増加する	54.4 令和3年度実績値より 1.5ポイント増加する	54.9 令和3年度実績値より 2.0ポイント増加する
上水使用量		m ³	192	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)
地下水使用量(中間処理部門)		m ³	14, 274	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)	現状を維持し、 適正利用を心がける (目標値を定めない)
地下水使用量(本社・運輸 洗車用)		m ³	3, 212	3, 196 令和3年度実績値より 0.5%の削減をする	3, 164 令和3年度実績値より 1.5%の削減をする	3, 147 令和3年度実績値より 2.0%の削減をする

5. 環境経営計画の実績

●運用期間 令和5年4月～令和6年3月

環境目標項目	単位	[基準年度] 令和3年度 4月～3月 実績値	[本年度] 令和5年度 4月～3月 目標値(※1)	目標率	[本年度] 令和5年度 4月～3月 実績値	基準年度 との比較	目標値 との比較 (達成率)	年間 評価 (※2)
二酸化炭素排出削減 東京電力2020年度排出 係数 0.434使用	kg-CO2	1,316,219	1,297,791	1.4%削減	1,248,656	5.1%削減	3.8% 下回っている	○
電力消費量の削減	kWh	248,067	246,827	0.5%削減	200,931	19.0%削減	18.6% 下回っている	○
LPG消費量の削減	kg	210	適正利用を心がける (目標値を定めな い)	—	160	23.8%削減	—	-
灯油消費量の削減	L	3,271	3,206	2.0%削減	2,388	27%削減	25.5% 下回っている	○
ガソリン消費量の削減	L	6,041	適正利用を心がける (目標値を定めな い)	—	6,095	3.9%増加	—	-
軽油消費量の削減	L	452,583	445,794	1.5%削減	435,453	5.8%削減	5.4% 下回っている	○
上水使用量削減	m ³	192	適正利用を心がける (目標値を定めな い)	—	179	6.8%削減	—	-
井戸水消費量削減 (中間処理用水)	m ³	14,274	適正利用を心がける (目標値を定めな い)	—	8,046	43.6%削減	—	-
井戸水消費量削減 (洗車用水)	m ³	3,212	3,196	0.5%削減	4,131	28.6%増加	29.3% 上回っている	×
一般廃棄物排出量削減	t	0.56	資源の再利用に努め る (目標値を定めな い)	—	0.56	増減無し	—	-
産業廃棄物排出量削減 (産廃・特管)	t	7,346	再資源化量増加による リサイクル率の上昇を 目指す (目標値を定めない)	—	6,378	13.2%減少	—	-
再資源化率 (廃プラ・紙くず・金属くず が 再資源化された割合)	t	52.9%	53.9%	1.0ポイント増	54.9%	2.0ポイント増	1.0ポイント増	○

(各月の詳細な実績については次頁参照)

※1 年間ベースの「目標値」は、基準年度の実績値を元に、短期目標の目標率に応じて設定する。
※2 年間を通しての評価は、基準年度と比較して、目標達成していれば「○」、そうでなければ改善の必要がありとして「×」を記入する。

※「累積値比」は月毎の目標値と比較した際の実績値の割合を示し、3月末時点での数値を「達成率」とする。

環境目標項目		単位	令和5年度												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
二酸化炭素排出削減	kg-CO2	単月目標	108,149	108,149	108,149	108,150	108,150	108,150	108,149	108,149	108,149	108,149	108,149	108,149	108,149
		累積値	108,149	216,298	324,447	432,597	540,747	648,897	757,046	865,195	973,344	1,081,493	1,189,642	1,297,791	
		単月実績	103,825	107,047	108,730	106,235	99,941	102,961	100,495	95,860	109,548	99,789	103,306	110,919	
		累積値	103,825	210,872	319,602	425,836	525,778	628,738	729,233	825,093	934,641	1,034,430	1,137,736	1,248,656	
		累積値比	-4.0%	-2.5%	-1.5%	-1.6%	-2.8%	-3.1%	-3.7%	-4.6%	-4.0%	-4.4%	-4.4%	-3.8%	
		月毎評価(※3)	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	×	
東京電力2020年度排出係数 0.434使用		総合評価レベル(※4)	◎			◎			◎			◎			
環境効率指標 (CO2排出) 【総売上(千円)/CO2排出量(kg-CO2)】		0.81 (R3年度ベース)	0.89	0.86	0.90	1.00	0.83	0.90	0.86	0.95	0.88	0.94	0.88	1.02	
			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
電力消費量の削減	kWh	単月目標	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	20,569	
		累積値	20,569	41,138	61,707	82,276	102,845	123,414	143,983	164,552	185,121	205,690	226,259	246,827	
		単月実績	18,310	15,705	17,793	15,859	15,623	15,895	14,321	16,767	17,204	17,815	19,684	15,955	
		累積値	18,310	34,015	51,808	67,667	83,290	99,185	113,506	130,273	147,477	165,292	184,976	200,931	
		累積値比	-11.0%	-17.3%	-16.0%	-17.8%	-19.0%	-19.6%	-21.2%	-20.8%	-20.3%	-19.6%	-18.2%	-18.6%	
		月毎評価(※3)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境効率指標 (電力) 【総分場売上(千円)/総分場電力(kwh)】		0.95 (R3年度ベース)	1.06	1.02	0.97	0.94	1.16	1.02	1.25	1.05	0.92	0.99	0.76	0.89	
			◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	×	◎	×	×	
LPG消費量の削減	L	単月目標	適正利用を心がける(目標値を定めない)												
		累積値													
		単月実績	14	18	10	8	4	8	8	6	20	22	18	24	
		累積値	14	32	42	50	54	62	70	76	96	118	136	160	
		単月目標	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	268	268	
		累積値	267	534	801	1,068	1,335	1,602	1,869	2,136	2,403	2,670	2,938	3,206	
灯油消費量の削減	L	単月実績	118	107	139	111	106	122	112	381	514	288	279	110	
		累積値	118	225	364	475	581	703	815	1,196	1,710	1,998	2,278	2,388	
		累積値比	-55.8%	-57.9%	-54.6%	-55.5%	-56.5%	-56.1%	-56.4%	-44.0%	-28.8%	-25.2%	-22.5%	-25.5%	
		月毎評価(※3)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	
		総合評価レベル(※4)	◎			◎			◎			◎			
		環境効率指標 (灯油) 【本社売上+運輸売上+ 別売売上(千円)/灯油消費量(L)】	95.76 (R3年度ベース)	164.44	150.17	124.54	134.65	171.27	132.76	159.32	46.32	30.76	61.22	53.64	129.54
			◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	◎		
ガソリン消費量の削減	L	単月目標	適正利用を心がける(目標値を定めない)												
		累積値													
		単月実績	485	555	415	622	598	514	489	531	585	362	482	456	
		累積値	485	1,040	1,455	2,077	2,675	3,190	3,678	4,209	4,794	5,156	5,639	6,095	
		単月目標	37,149	37,149	37,149	37,149	37,149	37,149	37,150	37,150	37,150	37,150	37,150	37,150	
		累積値	37,149	74,298	111,447	148,596	185,745	222,894	260,044	297,194	334,344	371,494	408,644	445,794	
軽油消費量の削減	L	単月実績	36,037	37,642	38,041	37,255	34,922	36,084	35,437	32,971	37,933	34,517	35,456	39,157	
		累積値	36,037	73,679	111,721	148,976	183,899	219,983	255,419	288,391	326,323	360,840	396,296	435,453	
		累積値比	-3.0%	-0.8%	0.2%	0.3%	-1.0%	-1.3%	-1.8%	-3.0%	-2.4%	-2.9%	-3.0%	-2.3%	
		月毎評価(※3)	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	
		総合評価レベル(※4)	×			◎			◎			◎			
		環境効率指標 (軽油) 【本社売上+運輸売上+ 別売売上(千円)/軽油消費量(L)】	1.73 (R3年度ベース)	1.88	1.88	2.02	2.31	1.67	1.96	1.84	2.08	1.97	2.13	1.99	2.46
			◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
上水使用量削減	㎡	単月目標	適正利用を心がける(目標値を定めない)												
		累積値													
		単月実績	15	15	14	14	16	16	14	15	14	14	16	16	
		累積値	15	30	44	58	74	90	104	119	133	147	163	179	
井戸水消費量削減 (中間処理部門 焼却炉)	㎡	単月目標	適正利用を心がける(目標値を定めない)												
		累積値													
		単月実績	680	576	601	659	728	790	636	710	1,108	782	459	317	
		累積値	680	1,256	1,857	2,516	3,244	4,034	4,670	5,380	6,488	7,270	7,729	8,046	
井戸水消費量削減 (本社・運輸 洗車用水)	㎡	単月目標	266	266	266	266	268	268	266	266	266	266	266	266	
		累積値	266	532	798	1,064	1,332	1,600	1,866	2,132	2,398	2,664	2,930	3,196	
		単月実績	301	336	248	256	261	312	281	357	538	481	420	340	
		累積値	301	637	885	1,141	1,402	1,714	1,995	2,352	2,890	3,371	3,791	4,131	
		累積値比	13.2%	19.7%	10.9%	7.2%	5.3%	7.1%	6.9%	10.3%	20.5%	26.5%	29.4%	29.3%	
		月毎評価(※3)	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	
		総合評価レベル(※4)	×			×			×			×			
一般廃棄物排出量削減	t	単月目標	現状を維持し、資源の再利用に努める(目標値を定めない)												
		累積値													
		単月実績	0.03	0.04	0.05	0.06	0.04	0.05	0.05	0.06	0.06	0.04	0.05	0.05	
		累積値	0.03	0.07	0.12	0.18	0.21	0.26	0.31	0.37	0.42	0.46	0.51	0.56	
産業廃棄物排出量	t	単月目標	再資源化量増加による、リサイクル率の向上を目指す(目標値を定めない)												
		累積値													
		単月実績	497	510	564	516	472	605	511	568	584	377	569	604	
		累積値	497	1,007	1,571	2,088	2,560	3,164	3,675	4,243	4,828	5,205	5,774	6,378	
環境効率指標 (産業廃棄物排出量) 【総分場売上(千円)/産業廃棄物排出量(t)】		32.12 (R3年度ベース)	39.02	31.52	30.67	28.96	38.45	26.79	34.94	31.06	27.05	46.74	26.34	23.58	
			◎	×	×	×	◎	×	◎	×	×	◎	×	×	
再資源化率	%	単月目標	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	53.9%	
		単月実績	51.7%	58.0%	49.2%	53.7%	62.5%	54.8%	52.7%	51.5%	50.4%	60.6%	55.3%	58.0%	
		平均値	51.7%	54.9%	53.0%	53.1%	55.0%	55.0%	54.7%	54.3%	53.8%	54.5%	54.6%	54.9%	
		平均値と目標値の差	-2.2ポイント	+1.0ポイント	-0.9ポイント	-0.8ポイント	+1.1ポイント	+1.1ポイント	+0.8ポイント	+0.4ポイント	-0.1ポイント	+0.6ポイント	+0.7ポイント	+1.0ポイント	
		月毎評価(※3)	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
		総合評価レベル(※4)	×			◎			◎			◎			

※1 年間ベースの「目標値」は、基準年度の実績値を元に、短期目標の目標率に応じて設定する。

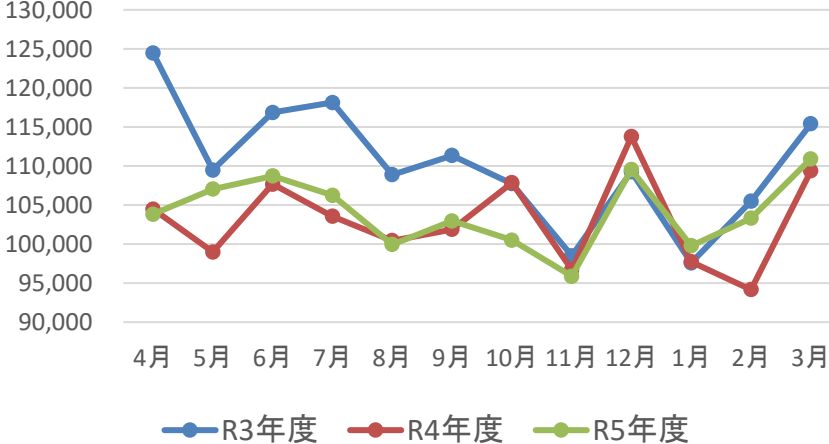
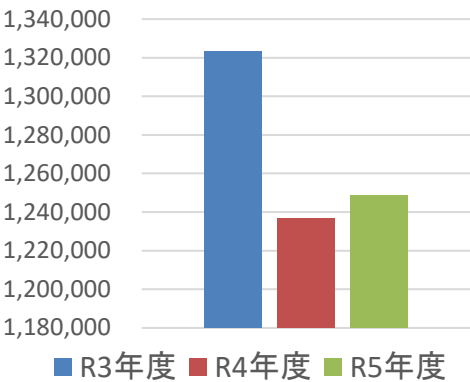
※2 年間を通しての評価は、基準年度と比較して、目標達成していれば「○」、そうでなければ改善の必要がありとして「×」を記入する。

※3 月毎評価は、単月目標と単月実績を比べて達成できていれば「○」、できていなければ「×」を記入する。

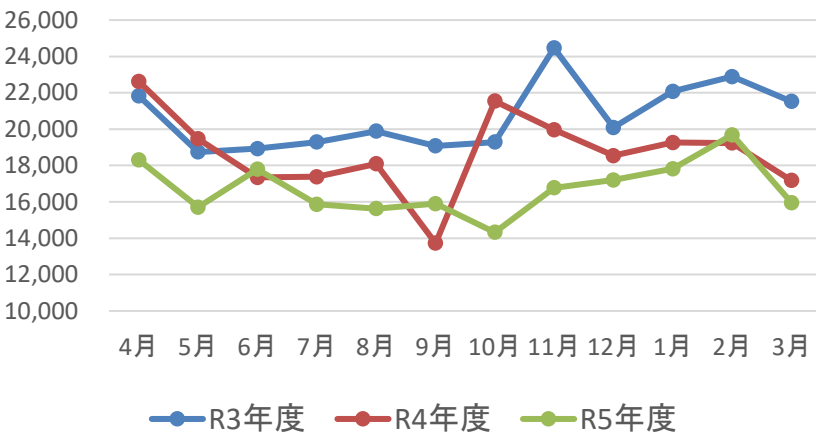
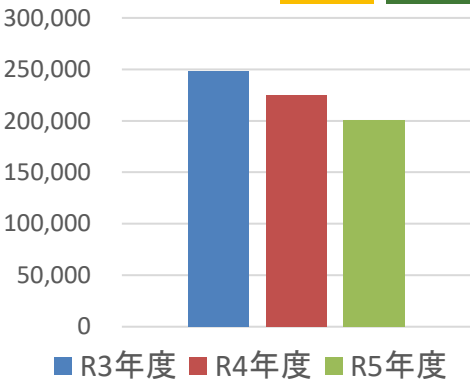
※4 総合評価レベルは3ヶ月間の実績累積が目標値累積内を達成していれば「◎」を記入、そうでなければ「×」を記入する。

6. 令和3年度～令和5年度実績の比較

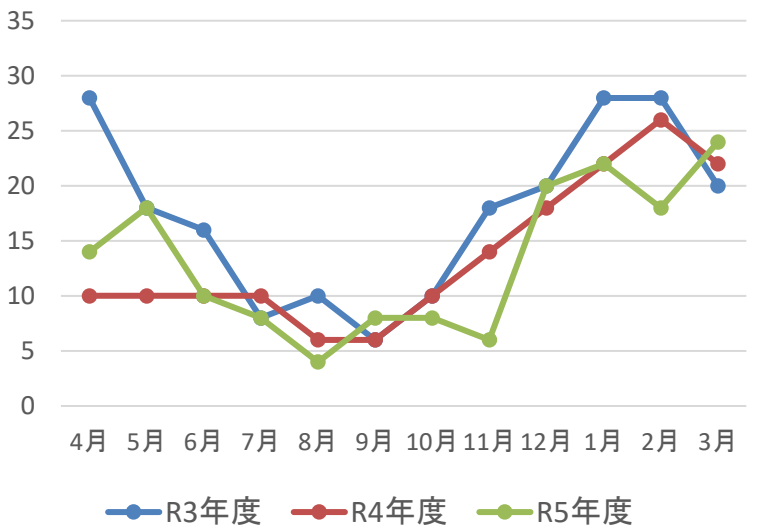
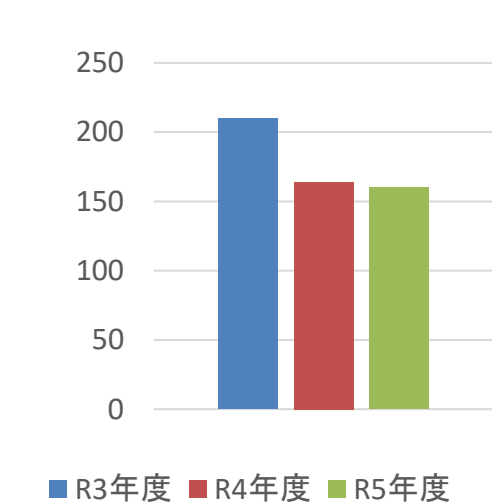
二酸化炭素排出量(kg-CO2)
※2020年度排出係数0.434換算



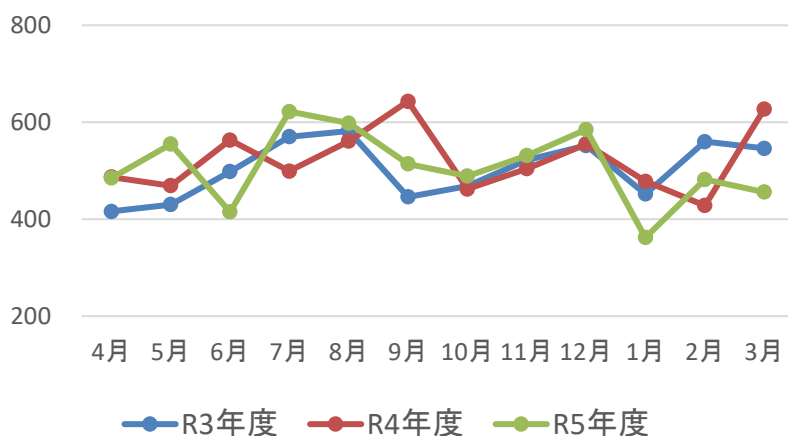
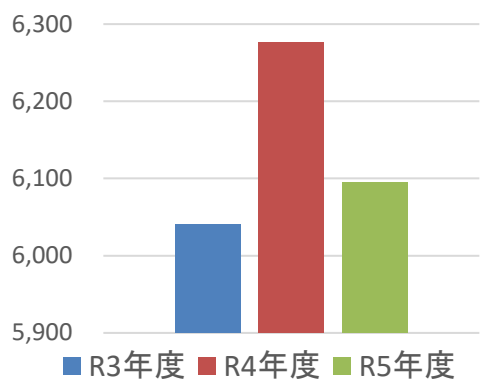
電力消費量(kWh)



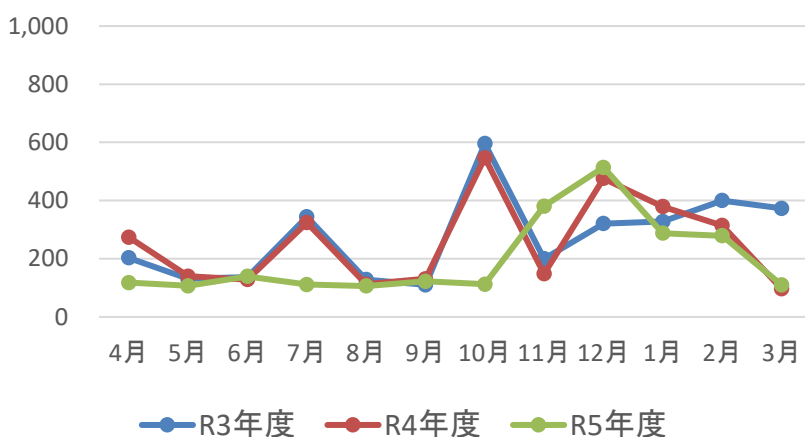
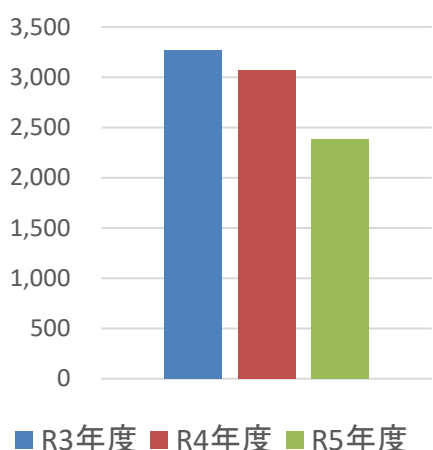
LPG消費量(L)



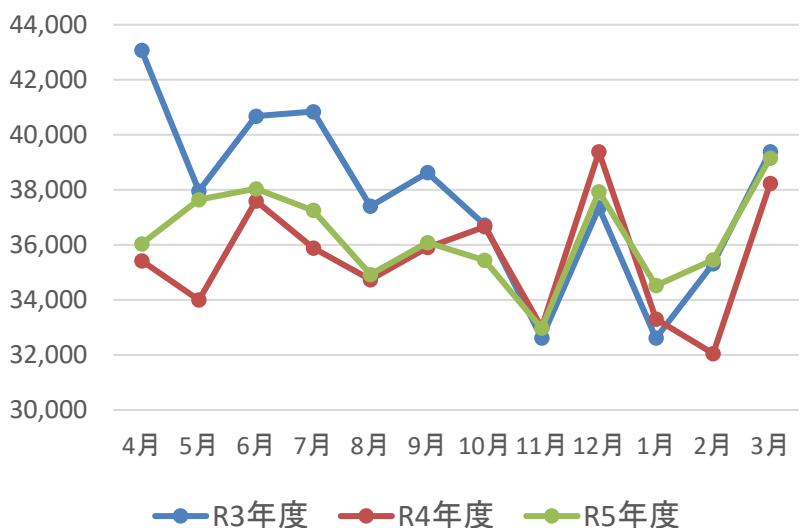
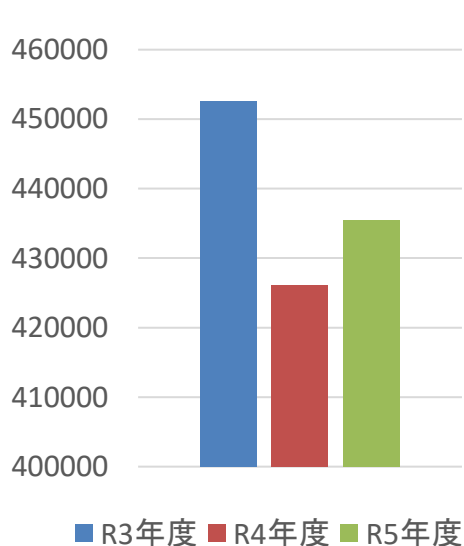
ガソリン消費量(L)



灯油消費量(L)

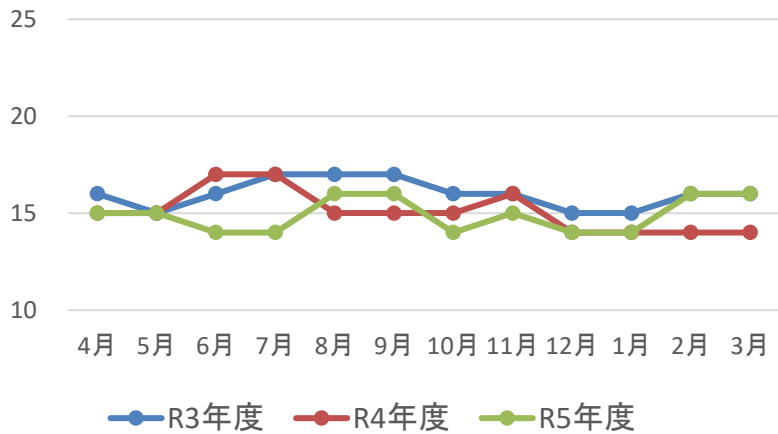
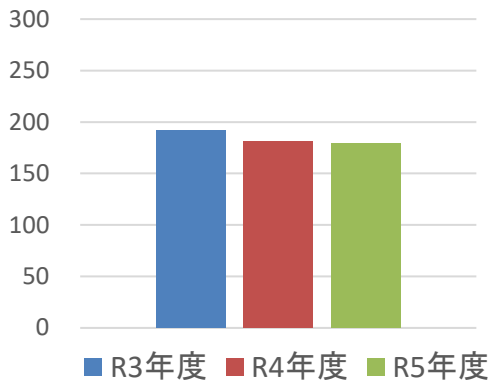


軽油消費量(L)

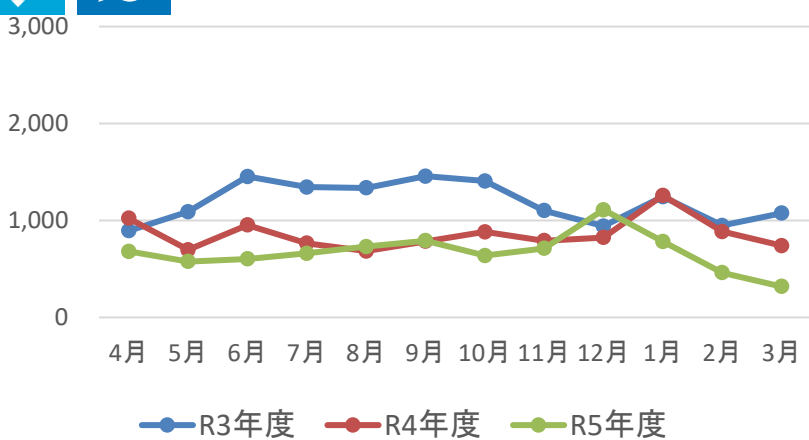
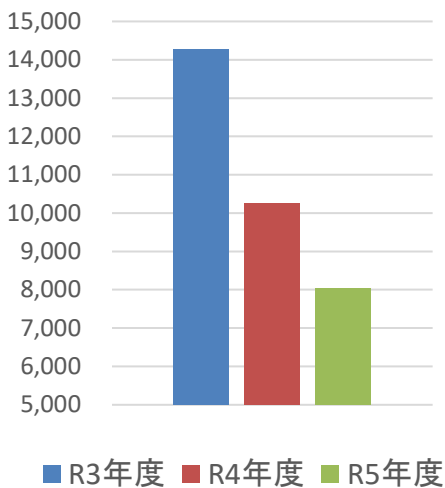




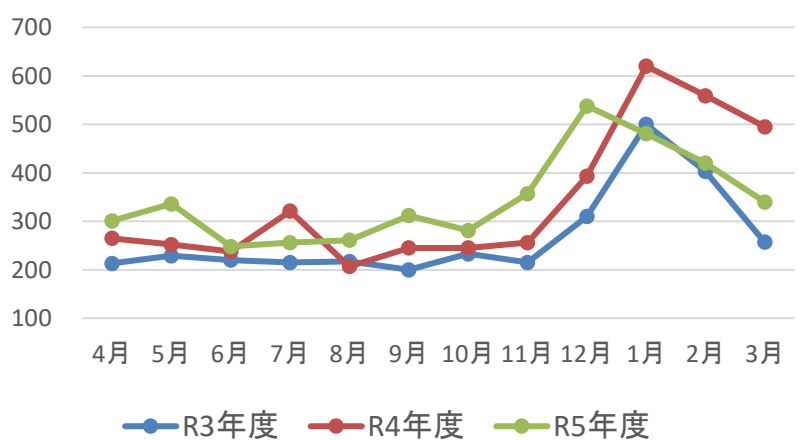
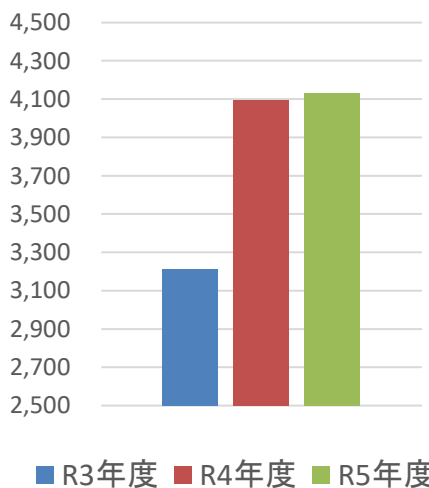
上水使用量(m³)



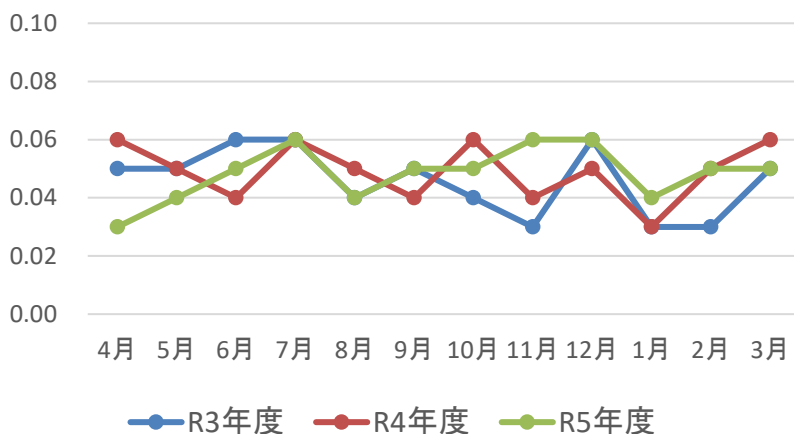
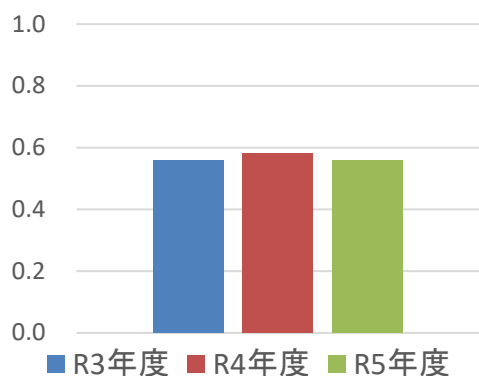
地下水(中間処理用水)使用量(m³)



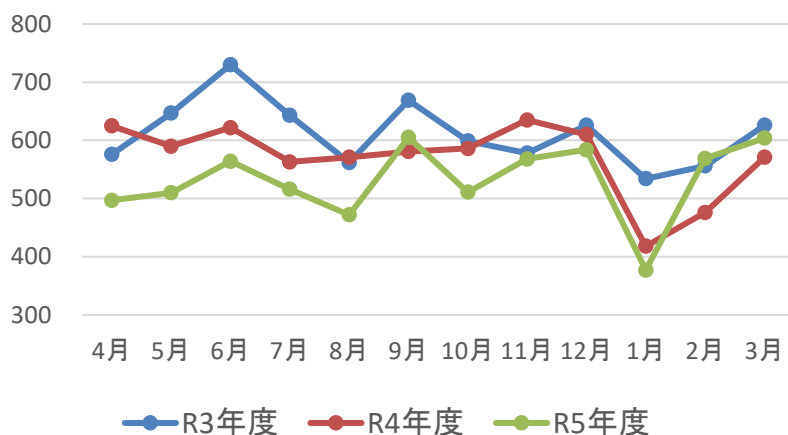
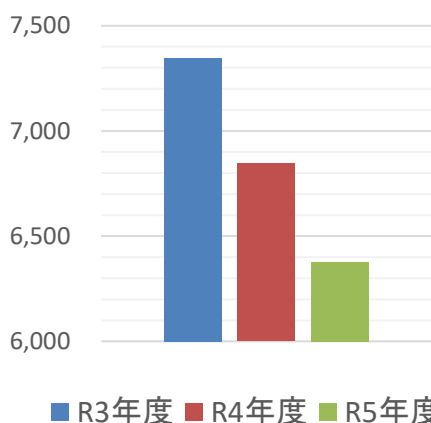
地下水(洗車用水)使用量(m³)



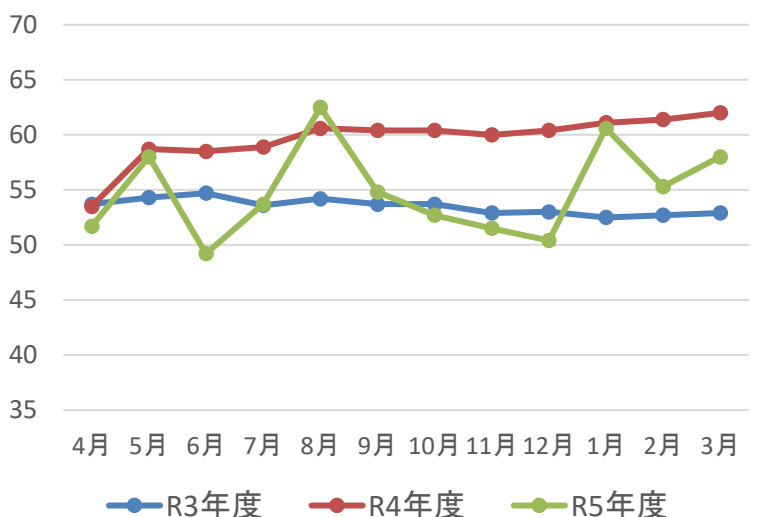
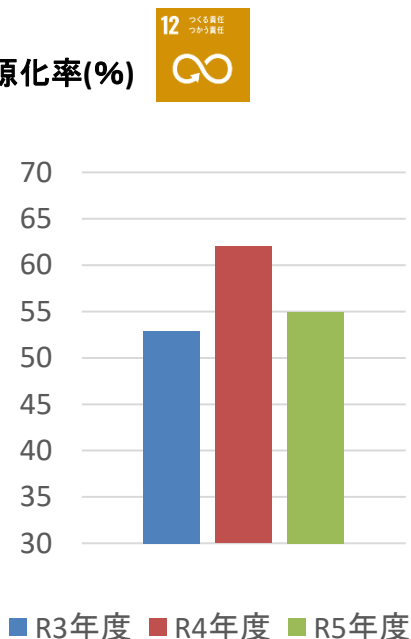
一般廃棄物排出量(t)



産業廃棄物排出量(t)



再資源化率(%)



7.環境経営計画と取組結果の評価及び次年度の取組み

●運用期間 令和5年4月～令和6年3月

・「達成率」は4月～3月の合計目標値と比した際の実績値の割合を示す。

環境活動計画の取組項目		本社 運輸	中間 処理	リサイクル 中間第二	達成率	評価及び次年度の取組み	次年度の 目標値
二 酸 化 炭 素 排 出 削 減	【電力消費量の削減】				-18.6%	電力・灯油・軽油消費量が削減されたため、二酸化炭素の排出量削減に至った。 売上に対する環境効率指標は、基準年度ベースが0.81に対して、本年度は0.91に向上した。処分場の電力使用において、年間を通して消費量は抑えられ目標を達成できた。売上に対する環境効率指標は、基準年度ベースが0.95に対して、本年度は1.00に向上している為、理想的な運用ができていると考えられる。 事務所の電気使用量は実績把握と、適正使用に努め、負荷の大きい処分場電力の使用量削減(効率的な使用)を引き続き目標とする。電力と環境負荷の大きい軽油の使用量が削減できた上で売上が向上した事は、理想的な効果を上げていると評価できる。	(二酸化炭素排出量) 1,289,795 kg-CO2 令和3年度より2.0%の削減をする。
	①事務室、工場などの照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯する。	○	○	○			(電力消費量) 243,106kWh 令和3年度より2.0%の削減をする。
	②食堂やトイレなど、照明は普段は消灯し、使用時のみ点灯する。	○	○	○			
	③パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定にする。	○	—	—			
	④夜間、休日、パソコン、プリンターなどの主電源を切る。	○	—	—			
	⑤空調の適温化(冷房28℃程度、暖房20℃程度)を徹底する。	○	○	—			
	⑥夏季における軽装、冬季における重ね着など服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑える。	○	○	○			
	⑦設備の定期点検と予防保全の実施する。	—	○	○			
	【軽油消費量の削減】目標⑦⑧				-5.4%	月毎の消費量が単月目標をほぼ達成できていて年間で見ると大幅な削減ができた。 年度全体を通しては、収集運搬量は前年度から2%程度減少し、それに伴って消費量も抑えられた。売上に対する指標は、基準年度ベースが1.73に対して、本年度は2.02であり、収集量は減少したものの、売り上げを維持しつつ燃料消費量も抑えられているので、環境経営の効果が上がっていると感じられる。 今後も燃費の悪い旧車両の入れ替えを検討しつつ、エコドライブの啓発等に引き続き務める。	443,531ℓ 令和3年度より2.0%の削減をする。
	①作業時間や待機時間、走行距離の短縮化を図る。	○	—	—			
	②運搬経路を選択する際に、幅員、渋滞などの道路条件を考慮する。	○	—	—			
	③排出事業者の排出状況や運搬先の処理施設などの状況を把握し、適切な収集運搬計画を立てる。	○	—	—			
	④廃棄物の種類、性状、排出量を把握し、適切な収集運搬機材の選出などを行う。	○	—	—			
	⑤エコドライブなど運転方法の配慮を励行する。	○	—	—			
	⑥タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つようにする。	○	—	—			
	⑦排気ガスや騒音のレベルを抑えるため適正な整備・点検を行う。	○	○	○			
	【LPG消費量の削減】目標⑨⑩				-25.5%	基準年度より23%の削減となっており、かつ全体の負荷における割合が少ないので、引き続き、適正な利用を心掛ける。	目標値を定めず、適正利用を心掛ける。
	①調理等に使用する際は、無駄な使用を控える。	○	○	—			
	【ガソリン消費量の削減】目標⑪⑫					目標値は定めなかったものの、消費量は前年度から3.9%増加している。前年に比べ燃費が向上がみられるので、適正使用の範囲と考えられ、今後も継続する。	使用量を抑える事を意識しながら燃費の向上を目指す。
	①エコドライブなど運転方法の配慮を励行する。	○	—	—			
	②タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つようにする。	○	—	—			
	③定期点検を着実に実施する。	○	—	—			
	【灯油使用量の削減】目標⑬⑭					焼却炉の稼働時間は前年とほぼ変わらない、かつ、売上の指標は良好であるので、効率的な焼却が出来ていると思われる。	3,189ℓ 令和3年度より2.5%の削減をする。
	①設備の定期点検と予防保全の実施する。	—	○	—			
	②日常的に大気汚染防止への配慮として燃焼管理を行う。	—	○	—			
廃 棄 物 排 出 量 削 減	【一般廃棄物排出量の削減】目標⑮⑯				+1.0 ポイント	目標値は定めなかったものの、排出量は基準年度と同程度である。引き続きコピー用紙の再利用に努める。 次年度もデータを把握しつつ、努力目標とする。	現状を維持し適正利用を心掛ける
	①文書の電子化に取り組む。	○	—	—			
	②両面、集約などの機能を活用した印刷及びコピーを徹底する。	○	—	—			
	③コピー機、プリンターの回収ルートを確認し、リサイクルを図る。	○	—	—			
	【再資源化率の向上】目標⑰⑱					排出量(取扱量)が減少し、なおかつ売上指標が前年より少し悪化している。年間を通して効率的な作業が出来たとは言えない。 一方で金属などの取り扱い量が増加したことでも再資源化率は目標を上回っている。	54.4% 令和3年度より1.5ポイント増加させる。
	①委託した産業廃棄物の計測管理、搬入管理を行う。	—	○	○			
	②紙、金属屑、プラスチックの選別を徹底する。	—	○	○			
	③処理の結果発生した中間処理後廃棄物は、リサイクルを行うことができる業者と契約する。	—	○	○			
総 排 水 量 削 減	【上水の使用量の削減】目標⑲⑳				+31.2%	生活使用目的の為、数値を把握するとともに、適正使用を心がける努力目標としている。	現状を維持し、適正利用を心掛ける。
	①節水呼びかけの表示をする。	○	—	—			
	②手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する。	○	—	—			
	【地下水の使用量の削減】目標㉑㉒					焼却炉の稼働が限定的な為、冷却水として使用する地下水の量は減少した。 洗車用水の使用量は前年度に比べて増えた。夏場以降、本社駐車場の高圧ホースの不調によるものと考えられる。現在は修理を施した為、今後の推移を見守る。	(中間処理) 現状を維持し、適正利用を心掛ける。 (本社・運輸) 3,116 m ³ 令和3年度より1.5%の削減をする。
	①節水呼びかけの表示をする。	○	○	—			
	②洗車する場合の節水を励行する。	○	○	—			

8.環境関連法規の取りまとめ及び違反訴訟の有無

●環境関連法規等の遵守状況

作成：竹田哲士

作成日：2024.4.1

・遵守状況評価の結果、法規制の逸脱はありませんでした。

法規・条例	規制事項・基準	当社の対応	状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	☐ 一般廃棄物処理業許可申請(許可申請) ☐ (特別)産業廃棄物収集運搬業許可申請(許可申請) ☐ 産業廃棄物処分業許可申請(許可申請) ☐ 保管基準（60×60以上の看板を表示・保管上限の遵守） ☐ 帳簿の記載(交付日、担当者、番号、品目、運搬終了日、数量、処分終了日の記載) ☐ マニフェストの保管(月末に排出事業場毎に綴じて5年間保存) ☐ 実績報告(前年度のマニフェスト交付状況を各自治体に報告)	☐ 申請済 ☐ 申請済 ☐ 申請済 ☐ 基準に基づき、飛散・浸透の防止に努めている ☐ 実施済 ☐ 保管中 ☐ 毎年6月30日までに提出する	◎
県産業廃棄物の適正な処理に関する法律	☐ 委託先の実地確認とその記録の保存 ・年1階の実地確認 ☐ 県内搬入に係る事前協議 ・県外からの廃棄物は事前協議が必要 ☐ 処理状況の報告 ・中間処理実績を県に報告する	☐ 委託契約書、許可証とともに年1回の実地確認を行う ☐ 都度提出済 及び、県外の排出事業から提出させる ☐ 毎年6月30日までに提出する	◎
大気汚染防止法	☐ ばい煙発生施設の届出 ・特定施設「13.廃棄物焼却炉」(焼却能力200kg/h以上) ☐ 一般粉塵発生施設の届出(破砕機) ☐ 排出基準の遵守 ☐ 測定の記録・保存と報告 ・ばい煙濃度を測定し、これを記録・保存し県へ報告する	☐ 届出済 ☐ 届出済 ☐ 基準を満たしている ☐ 年2回測定し、富士宮市を通じて県に報告している。	◎
振動規制法	☐ 特定施設設置使用届 (3・土石用または鉱物用破砕機 1・金属加工機液圧プレス) ☐ 規制基準の遵守	☐ 届出済 ☐ 基準を満たしている	◎
騒音規制法	☐ 特定施設設置使用届 (3・土石用または鉱物用破砕機 送風機 1・金属加工機液圧プレス) ☐ 規制基準の遵守	☐ 届出済 ☐ 基準を満たしている	◎
静岡県生活環境の保全に関する条例	☐ 排出基準の遵守	☐ 基準を満たしている	◎
自動車NoxPM法	☐ 対策地域内での登録の不可 ・東京、埼玉、神奈川、千葉、大阪、兵庫、愛知、三重	☐ 車両の本拠が対象地域外 ☐ 車検証記載事項	◎
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	☐ 粒子状物質排出基準の遵守 ・粒子状物質の排出量:0.18g/KWh以下	☐ 該当車には低減装置を付ける ☐ 該当車は登録車両から削除する	◎
埼玉県生活環境保全条例	☐ 粒子状物質排出基準の遵守 ・粒子状物質の排出量:0.18g/KWh以下	☐ 該当車には低減装置を付ける ☐ 該当車は登録車両から削除する	◎
神奈川県生活環境の保全に関する条例	☐ 粒子状物質排出基準の遵守 ・粒子状物質の排出量:0.25g/KWh以下	☐ 該当車には低減装置を付ける ☐ 該当車は登録車両から削除する	◎
千葉県ディーゼル自動車から排出される粒子状物質の排出の抑制に関する条例	☐ 粒子状物質排出基準の遵守 ・粒子状物質の排出量:0.25g/KWh以下	☐ 該当車には低減装置を付ける ☐ 該当車は登録車両から削除する	◎
消防法	☐ 少量危険物の保管届出 ・指定数量 灯油: 200以上1,000リットル未満	☐ 貯蔵場所届出済	◎
ダイオキシン特別措置法	☐ 排出基準の遵守 ・排ガス(既設施設基準) ☐ 燃え殻、ばいじん排出基準の遵守 ☐ 測定の記録・保管と報告 ・ばい煙濃度を測定し、これを記録・保存し県へ報告する	☐ 基準を満たしている ☐ 基準を満たしている ☐ 年1回測定し、富士宮市を通じて県に報告している	◎
PRTR法	☐ 化学物質の特定 ・廃棄物処理業から発生する「179.ダイオキシン類」 ☐ 数値把握(ダイオキシンの発生数量を測定する) ☐ 届出(都道府県知事を経由して所管大臣に届出する)	☐ 該当する ☐ 発生量は微量である ☐ 実施済(年1回の測定) ☐ 届出済(6月末までに報告する)	◎
グリーン購入法	☐ 事業者の責務	☐ グリーン商品を優先して購入	◎
浄化槽法	☐ 浄化槽施設の届出 ・都道府県知事に届け出る ☐ 浄化槽の清掃・保守点検 ・年1回の法定検査と4ヶ月に1回以上の保守点検	☐ 届出済 ☐ 実施済 ☐ 清掃(8月) 保守(1,4,7,10月) ☐ 法定検査(4月)	◎
フロン排出抑制法	☐ 特定機器使用者の責務	☐ エアコンの簡易点検(3ヶ月に1回) ☐ 記録は機器廃棄後 3年間保存	◎
道路交通法	☐ 交通の安全と円滑な運行をはかる	☐ 遵守している	◎
貨物自動車運送事業法	☐ 一般貨物自動車運送事業の許可申請	☐ 申請済	◎

●違反・訴訟の有無

状況： ◎適切 △一部要是正 ×要是正

・環境法規制等の違反及び利害関係者からの訴訟等は過去3年間ありませんでした。

9.代表者による全体の評価と見直し・指示

令和5年度は、昨年度に設定した中長期目標に基づいて環境活動を実施しました。活動を総評するに、弊社において環境負荷の高いCO2の削減（廃棄物焼却炉および収集運搬車両の運用）と、廃棄物処理業者としての責務と考えている産業廃棄物の再資源化率の向上が共に達成できたことが評価できます。

CO2の削減においては、負荷の高い電力、灯油、軽油において目標が達成できており、これが全体の削減に寄与したものです。運搬量と処分量が前年度より減少していますが、売上に対する消費量の指標は概ね向上していることから、今年度も効率的な環境経営ができたと評価できます。

エネルギー関連では営業車両におけるガソリンの消費量は増加しましたが、頻繁に稼働していることから、今後も目標値は定めず、エコドライブと燃費向上を心掛けていきたいです。

地下水使用に関しては、焼却炉冷却塔においては消費量の抑制がみられましたが、本社洗車場においてはポンプの不調により、消費量が増加してしまいました。現在では修理を施し、通常の水準に戻るよう注視しております。

金属などの取り扱い量が増加したことで再資源化率は目標を上回っていますが、排出量（取扱量）が減少し、なおかつ売上指標が前年より少し悪化しているため、作業の標準化などを通して作業効率が上がるような工夫をこらす必要があります。

年々、取りあつかう産廃の量は減りつつあり、それに伴って事業活動で使用する電力量や燃料も減る傾向にはあります。しかし価格の見直しなどにより、総売り上げは昨年度よりも増加しているという今回の結果は、効率的な環境経営ができていると考えます。

これからも引きづ付き、環境経営に社員一同でとりくんでいきましょう。

2024年5月31日 代表取締役 竹田哲士

点検項目	見直しによる指示事項	見直しの必要性
環境経営方針	特になし	☐ 有 ☒ 無
環境経営目標	特になし	☐ 有 ☒ 無
環境経営計画	特になし	☐ 有 ☒ 無
法令順守	特になし	☐ 有 ☒ 無
苦情等対応	特になし	☐ 有 ☒ 無
是正予防措置	特になし	☐ 有 ☒ 無
実施体制	特になし	☐ 有 ☒ 無